

「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」 中間評価結果

大 学 名	京都大学
-------	------

(総括評価) A	これまでの取組状況を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
-----------------	--

(コメント)

学長のリーダーシップのもと、全学体制で平成32年度の目標を明確にし、取り組んでいることは高く評価できる。

受け入れ留学生数、外国人教員の採用数は計画を上回る実績があがっている。また、海外の大学との連携プログラムも進められているが、実績については今後の取り組み次第と思われる。交換留学による派遣学生数は計画を下回っているが、原因分析と対策は適切に行われており、成果があがりつつある。

英語コースについては、研究科、学部とも計画通りに進行しており、学生の募集も進んでいる。学部コースについては今年が初年度であるが、留学生増加のため一層の努力が期待される。

留学生受け入れのための環境整備についても、新たな奨学金の創設、授業料免除制度、宿舍の提供など、事業開始後の取り組みも多く、着実に整備が進められている。渡日前入学許可制度も実績があがっているが、専攻科によっては先行部局を参考にする等の改善が望まれる。海外での広報活動も活発であるが、さらなる充実が望まれる。

日本人学生派遣のための取り組み、特に初年時からの説明会開催、短期海外プログラムの充実など、構想時には記載がなかったような新しい取り組みがなされており、成果も上がってきていることは評価できる。

海外大学共同利用事務所の整備は計画通りに進められている。

日本人教員の活動も強化されており、FDも効果が上がっている。外国人教員との連携により、教育手法の改善もなされている。